

1 府中町の概要

1-1 地勢

- 当町は、広島都市圏^{*}の東部に位置し、周囲を広島市東区、南区、安芸区に囲まれています。町域は東西4.18km、南北5.20kmで、面積は10.41km²です。
- 地形は、北東部に標高592mを最高に200m前後の山地が連なり、南西部には低地が広がっています。低地部は概ね市街化され、丘陵部に向けても住宅団地が造成されています。
- 主要な河川は、府中大川、榎川で、町域の南西部に沿って流下し、猿猴川に合流し、瀬戸内海に注いでいます。

1-2 気候

- 瀬戸内海に面した地域の特徴である、温暖で、比較的降水量の少ない気候です。過去10年間の年平均気温は16.6℃、降水量は年間約1,660mmです。

位置図



本文中、^{*}印のある言葉は、第4編「参考資料」の「6 用語解説」に掲載しています。

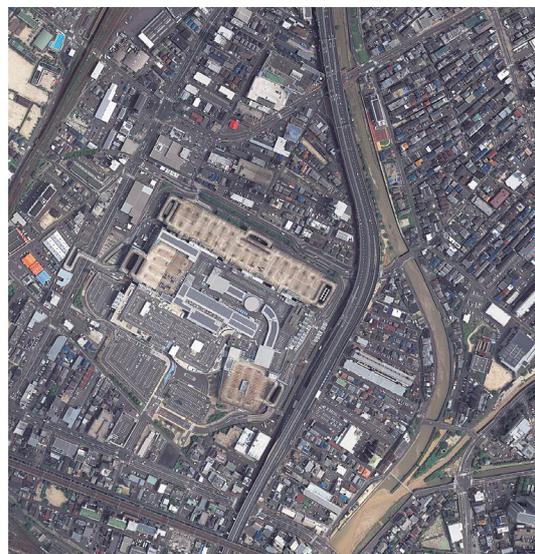
1-3 歴史と沿革

- 当町は、府中という名が示すように、安芸の国府が置かれたところと伝えられ、古代安芸の国の政治、文化の中心地であったといわれています。その後、政治経済の中心は広島市に移り、農業主体の村として新田開発が行われ、現在のまち並みが形成されてきました。明治22(1889)年の町村制施行によって府中村が誕生し、昭和12(1937)年に町制を施行し、その間、合併をすることなく現在に至っています。
- 当町を特徴づける工業は、昭和6(1931)年の東洋工業(株)(現マツダ(株))本社の町内移転に始まり、昭和13(1938)年にはキンビール広島工場の立地、自動車機械をはじめとする関連工業の集積を経て、まちの基盤を支えてきました。住宅地は、昭和30(1955)年代から団地開発が始められ、昭和30(1955)年代後半から昭和50(1975)年頃まで急激な人口増加を経験しました。その後も緩やかに人口増加が続き平成2(1990)年の国勢調査では人口5万人を超え、全国でも有数の人口を擁する自治体となりました。
- 平成16(2004)年3月にキンビール広島工場跡地に大規模複合商業施設ダイヤモンドシティ・ソレイユ(現イオンモール広島府中)が開業し、広島都市圏*東部の商業の拠点としての役割が新たに加わりました。
- 平成19(2007)年5月には町立図書館と多目的ホールなどが複合した、安芸府中生涯学習センター「くすのきプラザ」が開館し、生涯学習拠点としての機能も充実しました。
- 平成22(2010)年4月に鶴江鹿籠線が全線開通し、同年広島高速道路網を構成する広島高速2号線(府中仁保道路)の完成によって、広域的な都市間のアクセスが飛躍的に向上しました。

【昭和14年撮影：キンビール広島工場付近】



【平成30年現在：イオンモール広島府中付近】



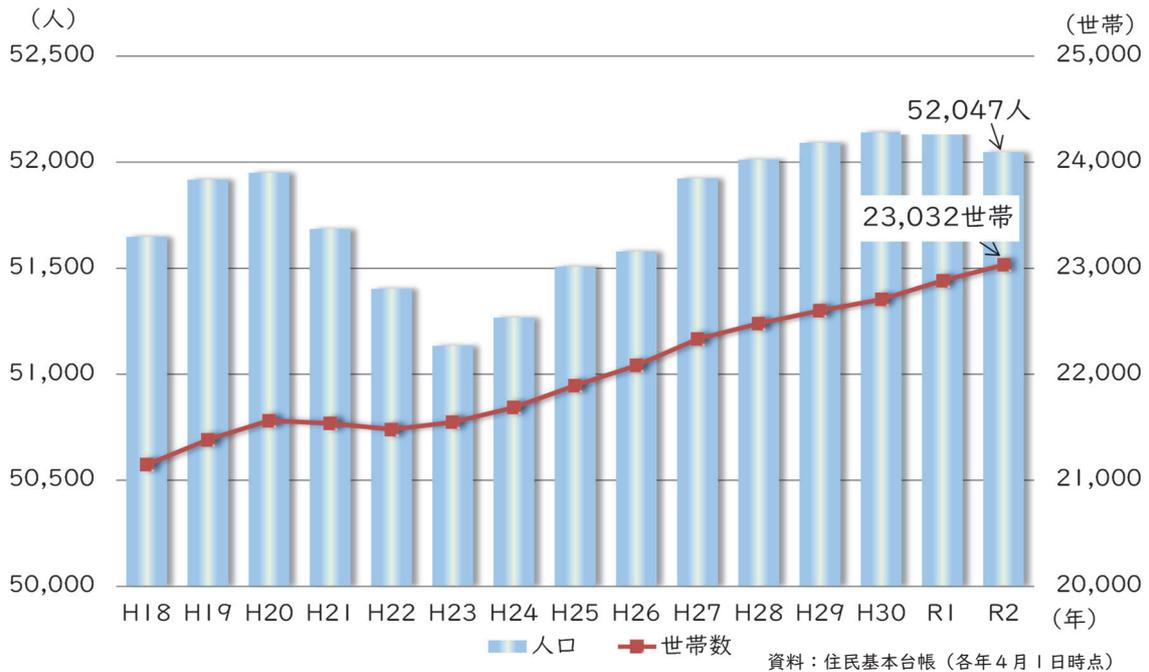
資料：国土地理院

本文中、*印のある言葉は、第4編「参考資料」の「6 用語解説」に掲載しています。

1-4 人口

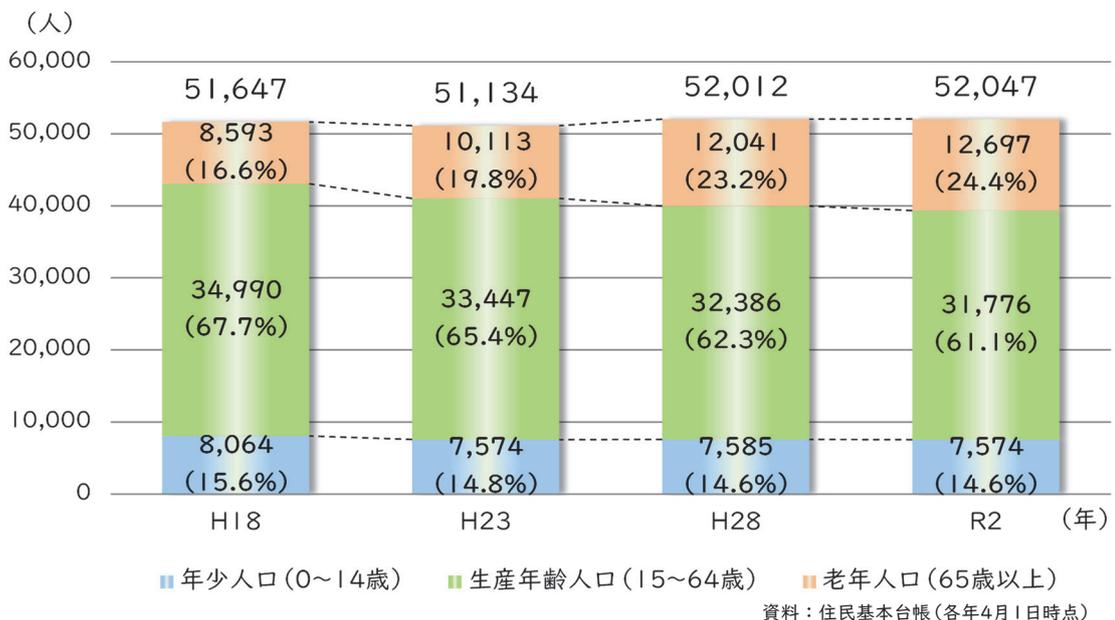
- 平成20(2008)年以降、人口は減少傾向にありましたが、平成23(2011)年より増加に転じ、令和2(2020)年は52,047人となっています。また、世帯数は増加傾向で推移しており、令和2(2020)年は23,032世帯となっています。

<人口の動き>



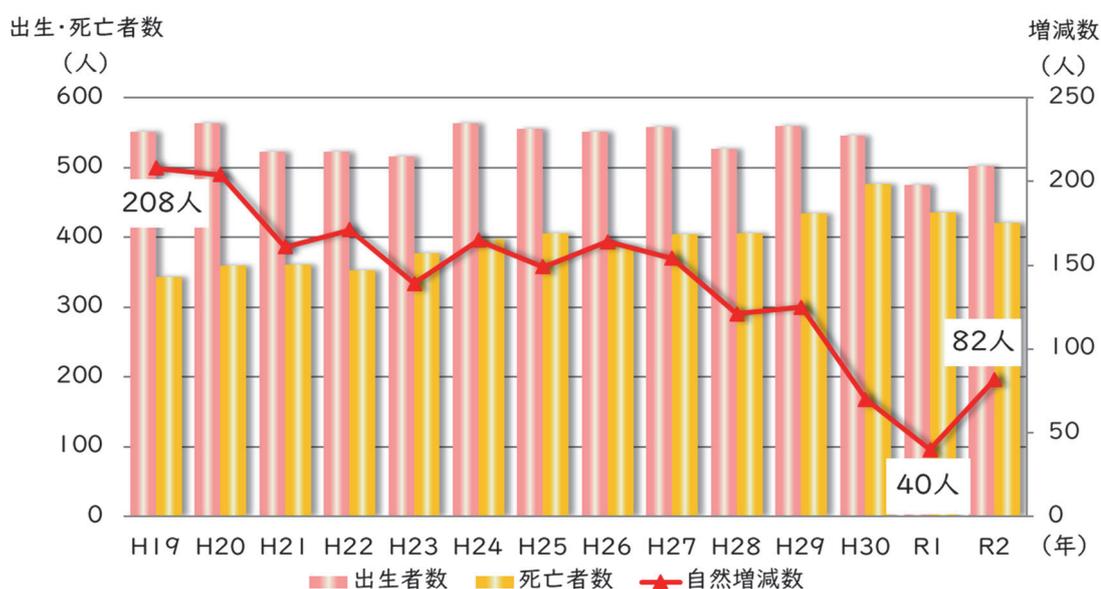
- 年齢3区分別人口の5年毎の推移は、14歳以下の年少人口の割合及び15歳～64歳の生産年齢人口の割合が減少しているのに対し、65歳以上の老年人口の割合は増加しています。

<年齢3区分別人口の動き（5年毎の推移）>



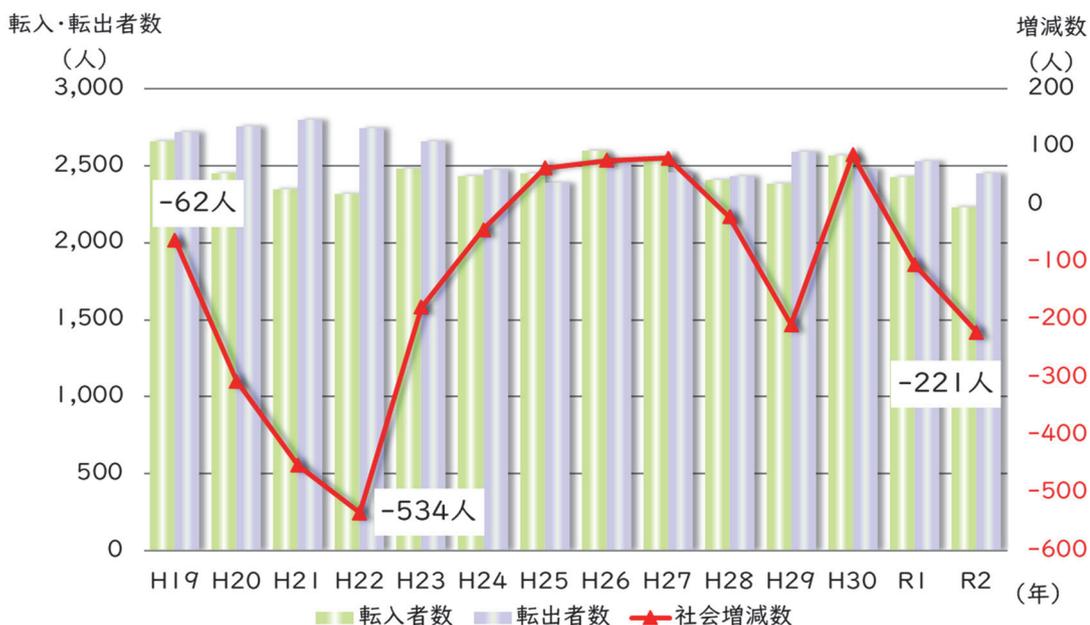
- 当町の人口動態は、社会動態（転入と転出の差）の増減が主な人口増減の要因となっています。
- 自然動態（出生と死亡の差）は、自然増を維持し続けているものの減少傾向となっており、令和元（2019）年には40人まで減少しましたが、令和2（2020）年には82人となっています。
- 社会動態は、平成22（2010）年には534人の社会減となりましたが、その後増加傾向となり、平成25（2013）年から3年間は社会増となりました。その後、増減を繰り返し、令和2（2020）年は221人の社会減となっています。

<自然動態>



資料：広島県人口移動統計調査（各年とも前年10月1日から当年9月30日までの合計値）

<社会動態>

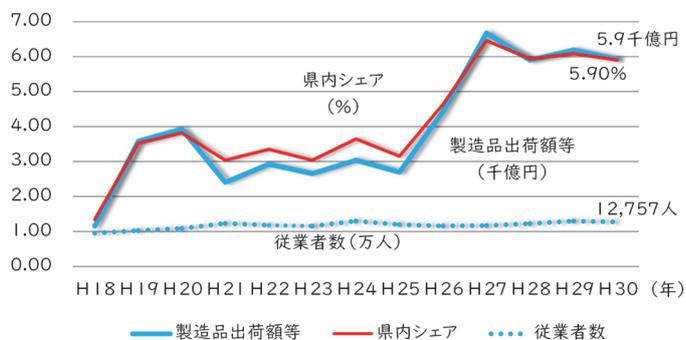


資料：広島県人口移動統計調査（各年とも前年10月1日から当年9月30日までの合計値）

1-5 産業

- 製造品出荷額等※は、平成21(2009)年以降横ばい傾向にありましたが、平成25(2013)年から大幅な増加傾向に転じ、平成30(2018)年には5,928億円、県内シェア5.90%となっています。また、従業者数は、平成30(2018)年は12,757人となっています。

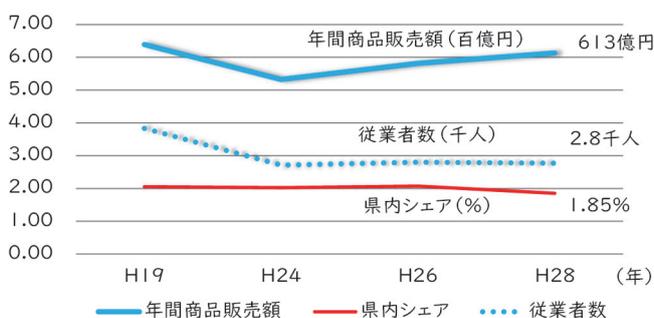
<工業の動き>



資料：工業統計調査

- 小売業年間商品販売額※は、平成24(2012)年に減少しましたが、その後増加し、平成28(2016)年には613億円にまで増加しています。また、従業者数は、平成24(2012)年に減少し、平成28(2016)年には2,773人となっています。

<商業の動き>



資料：商業統計調査・経済センサス

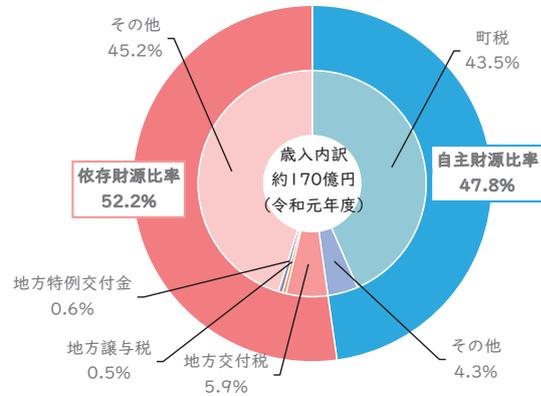
1-6 道路・交通

- 道路については、骨格をなすループ状道路や広島市などと連絡する広域的な幹線道路などの整備が進み、利便性の向上が図られ、広島都市圏※の中でも高い整備率となっています。しかし、依然として住宅密集地における生活道路は、平成18(2006)年からの補助街路※整備などの新たな取り組みに着手しているものの、平成30年7月豪雨※のような近年多発する都市型災害※を考慮すると課題を多く抱えています。
- 平成15(2003)年10月より運行開始したコミュニティバス『つばきバス』が、町の南北と町内公共施設を連絡し、暮らしの利便性を支えています。

1-7 財政

- 当町の財政は令和元(2019)年度について、依存財源がやや多くなっており、自主財源*のうち町税が43.5%を占めています。

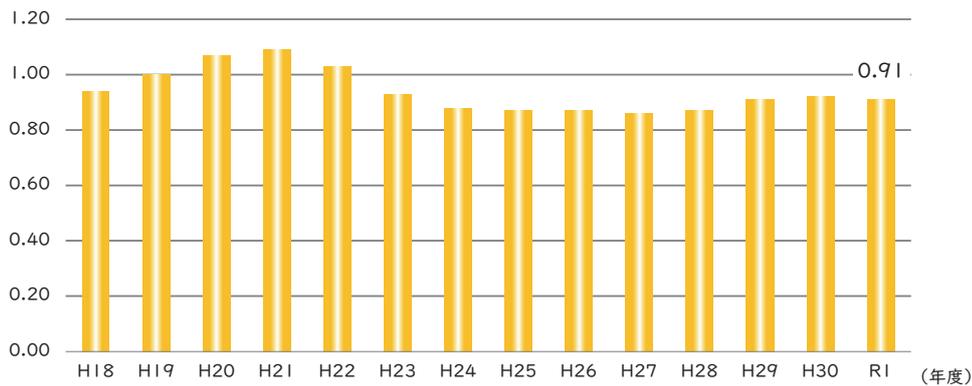
<自主財源比率>



資料：地方財政状況調査

- 財政力の豊かさを表す財政力指数*は、平成19(2007)年度から平成22(2010)年度にかけて1.0を上回ったものの、その後やや減少し、令和元(2019)年度は0.91となっています。

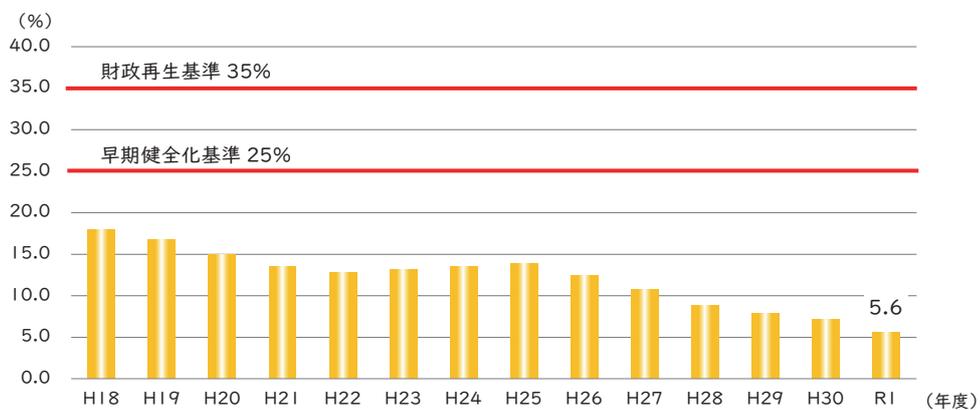
<財政力指数>



資料：地方財政状況調査

- 実質公債費比率*は、平成18(2006)年度から減少傾向が続き、平成28(2016)年度には10.0%を下回り、令和元(2019)年度は5.6%となっています。

<実質公債費比率>



資料：地方財政状況調査

本文中、※印のある言葉は、第4編「参考資料」の「6 用語解説」に掲載しています。